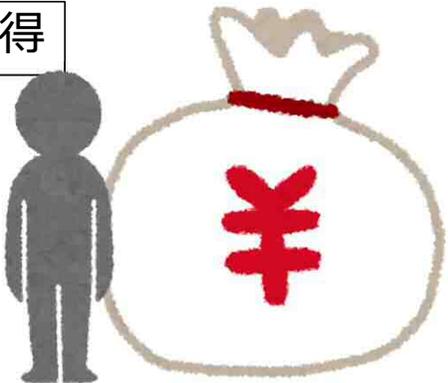
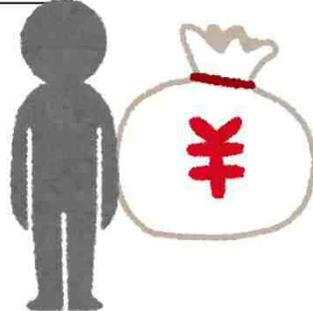


# 例1 令和5年所得よりも、令和6年所得が減少した方

令和5年所得	
推計所得税額	20,000円
定額減税可能額(所得税分)	30,000円 <small>(1人×所得税分3万円)</small>
当初調整給付額	<b>10,000円</b>



令和6年所得	
実績所得税額	10,000円
定額減税可能額(所得税分)	30,000円 <small>(1人×所得税分3万円)</small>
本来給付すべき額	<b>20,000円</b>

差額の**1万円**を不足額として給付

※「本来給付すべき額 20,000円」 - 「当初調整給付額 10,000円」 = 10,000円

令和5年所得に基づく推計所得税額が2万円、所得税分の定額減税額が3万円、当初調整給付額は1万円。  
その後、令和6年所得が確定し、実績所得税額が1万円、所得税分の定額減税可能額が3万円となり、本来給付すべき額は2万円となる。  
この場合、当初調整給付額の1万円と本来給付すべき額の2万円の差額である1万円が不足額給付として給付される。  
※端数は1万円単位に切上げされる。